

第11回 長安ロダム改造事業費等監理委員会

第10回委員会での主な意見と取り組み

平成30年6月

那賀川河川事務所

【第10回委員会(平成29年度)における主な意見と取り組み】

前回の委員会でいただいた以下の主な3つの意見に対する、当事務所の取り組みについてご紹介します。

- (1) **広報については、長安ロダム事業が地域への波及効果や工事効果及びコスト削減に対する取り組み内容を分かり易く、広く地域の方々へ伝える工夫を行うこと。**
 - 那賀町の広報誌に長安ロダム改造事業に関する情報を記載している。
 - 新聞記事(H30.6.6 徳島新聞他)に掲載されたことにより、見学依頼も増大している。
 - ケーブルテレビあなんの番組に那賀川河川事務所長自らが出演し、一般の視聴者に広く那賀川の理解と長安ロダム事業を含めた事業の必要性について広報を実施。
 - ①長安ロダム改造事業における広報の状況
- (2) **工期については、出水などの不確定な要因はあるが、引き続き工夫を行い、遵守に努めること。**
 - 工期内に改造工事を完成させる上で、一番の不確定要素としては、主に出水によるものである。これまでも取り組んできたが、適宜、施工計画・工法の見直しを行い、選択取水設備を含むダム改造事業については平成31年度の完成を遵守したい。
 - 月1回の定例会議を設け、現状の課題等について共有を図ると共に、工法の変更・調整事項の中でコスト縮減につながる話を取り入れるなど定期的に現場の話をくみ取るような枠組みを作っている。
- (3) **事業費については、維持管理費も考慮し、長期的スパンで事業費削減に努めること。**
 - ゲート改造設計時においてもイニシャルコストだけにとらわれることなく、ランニングコスト等も考慮し、事業費削減に努めてきた。今後、設計が本格化する長期的堆砂対策の土砂除去運搬施設設計等においても引き続き事業費削減となるよう努めていく。

①長安ロダム改造事業における広報の状況（平成27年4月～平成30年3月）

一般及び学校関係者の方に対して、四国地整HP上にある工事現場見学の受付案内を更新するとともに、**那賀町広報誌**に『**長安ロダム特設ページ**』を設けて、**ダム改造情報**や**なかがわ探検バスツアー**などを記載し広く周知。

また、那賀町・徳島県企業局主催の「**スマート回廊探訪ツアーデー**」に協賛し見学会を開催するとともに、旅行業への広報として、世界に誇る土木技術が詰め込まれた改造事業工事を観光資源として活用してもらうよう**インフラツーリズム**にも対応。

土木工事専門技術者に対しては、土木工事専門誌の**紹介記事**や**土木研究技術講演会**の**講演**等により、広報の幅を広げる試みを実施。平成27年12月より堤体本体の**大規模な切削を開始**し、平成28・29年度には**約2000人**もの見学者があった。



那賀町子どもまつり
(天端仮設構台)



南部総合県民局長ほか
(長安ロダム右岸展望台)



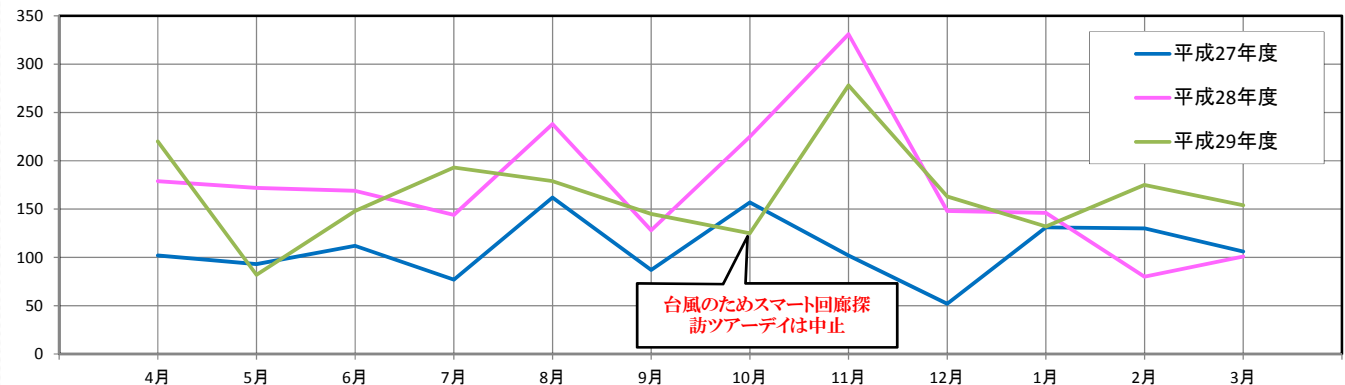
スマート回廊探訪ツアーデー

【長安ロダム見学者数】

平成19年度	見学者合計	55人
平成20年度	見学者合計	210人
平成21年度	見学者合計	160人
平成22年度	見学者合計	121人
平成23年度	見学者合計	238人
平成24年度	見学者合計	402人
平成25年度	見学者合計	154人
平成26年度	見学者合計	224人
H19～H26年度	合計	1,564人

平成27年度	見学者合計	1,311人(うち県外からの見学者約4割)
平成28年度	見学者合計	2,061人(うち県外からの見学者約5割)
平成29年度	月別見学者	
	4月	220人(うち県外からの見学者約5割)
	5月	82人(" 約5割)
	6月	148人(" 約6割)
	7月	193人(" 約5割)
	8月	179人(" 約6割)
	9月	145人(" 約6割)
	10月	125人(" 約6割)
	11月	278人(" 約5割)
	12月	163人(" 約3割)
	1月	132人(" 約6割)
	2月	175人(" 約6割)
	3月	154人(" 約5割)
(H30. 3月時点)	合計	1,994人(うち県外からの見学者約6割)

県外からの来訪者の割合も増えてきている



①長安口ダム改造事業における広報の状況（ケーブルテレビ放送について）

那賀川に関する疑問に対して、有識者とともに事務所長自らが、那賀川の課題や那賀川河川事務所の事業の役割を説明していくことで、一般の視聴者に広く那賀川の理解と事業の必要性について広報を実施。

- 放送局：ケーブルテレビあなん
- 番組名：考えるたけ丸君TV
- テーマ：那賀川を考える
- 放送エリア：県下全域
- 放送内容：
 - 第1・2回 討論編(撮影：1/23 放送時間：第1回50分 第2回58分)
 - ・那賀川の概要 ・ダムの役割 ・那賀川平野、那賀川の課題
 - 第3・4回 現地編(撮影：2/15・2/19撮影 放送時間：第3回58分 第4回60分)
 - ・現場での説明等
- 放送期間：平成30年2月～平成30年3月

考えるたけ丸くんTV



放送日	水曜・日曜
サイクル	隔週更新
放送時期	レギュラー放送 水曜：7:00 / 12:00 / 15:00 / 20:00 / 23:00 日曜：12:00

ケーブルテレビあなんのキャラクターたけ丸くんと一緒にまちの問題などを考える討論番組

「ケーブルテレビあなん」より
<http://www.tv-anan.jp/takenokoch/>

■長安口ダムは何をやっているのか？

→治水・利水・発電を目的としている。下流では農業・工業用水が沢山使われるため、雨の降らない時期にダムに貯めた水で補給している。

また、洪水が起こる前には水位を予め下げ、洪水調節を行っている。

■洪水前にさらに水位を下げればより洪水を貯められるのでは？

→現状の長安口ダムはゲートが上の方にしか設置されていないため、水位をそれほど下げられない。

既設ゲートの横にゲートを新設して、洪水を待ち構える水位を下げようとしている。



「那賀川を考える」というテーマのワンシーン

■土砂問題について

ダム上流からの土砂流入によりダムが埋まってしまう。ダムはポケットが重要であるため溜まった土砂を掘削、ダンプ運搬し、これをダム下流に置土することにより砂礫を下流河道へ供給している。

将来はダンプに替わりベルトコンベアで運搬する計画がある。

■ダムの改造について

ダムに水を貯めたまま(運用しながら)工事をしているため水深の深い場所での作業もあり非常に困難で全国でも類のない工事である。

改造工事により効果を得ることは出来るがこれで万全ではない。治水は先人達がやってきた努力の上になりたっているもので到達点はなく、これからさらに上の安全を目指すことが重要である。

見学に来て頂ければしっかり案内したいと思っているので是非来て頂きたい。

阿波の八ちゃん みなで、ようにせんか!

～砂レキが復活し、清流にアユが躍る那賀川づくり～



シンポジウムは、約150名が参加し立見者が出るほど盛大に行われた。本シンポジウムでは、京都大学の竹門准教授による基調講演や大野小学校4年生による「清き那賀川」の初披露、徳島大学大学院の河口准教授をはじめとする6人でのパネルディスカッションを行った。フィールドツアーでは、長安ロダムに堆積する土砂の掘削や掘削土砂の置き土砂状況を視察した後に、置き土砂が到達している小計橋で川の近くまで降りて、瀬淵や河床材料について視察を行った。シンポジウム等を通じて、流域住民との相互理解を深めながら、今後は川口ダム下流への土砂還元の検討の必要性が確認された。

日時:シンポジウム 平成30年1月27日(土)13:00～17:30 約150名参加
フィールドツアー 平成30年1月28日(日) 8:30～13:00 約60名参加
場所:徳島県阿南市ひまわり会館

■基調講演 ー自然の川は変動するものー 京都大学 准教授 竹門康弘

- ・日本の川の生物は、変動を受けて生息しており、2億年前から姿を変えないカゲロウもいるなど、変動に対して強い。
- ・目標に対して、過剰、不足があつて、初めて目標の値となる。
- ・目標は、幅をもった設定とし、変動を許容する必要がある。

■那賀川の歌(オリジナルソング) 阿南市立大野小学校 4年生

■総合的な土砂管理の現状について 砂防部 宇根総合土砂企画官

■事例報告

- ・長安ロダム置き土モニタリング結果報告 那賀川河川事務所 安永副所長
- ・相模ダム 神奈川県 河川下水道部 河川課 調査グループ 伊藤副技幹
- ・下久保ダム 水資源機構 下久保ダム管理所 木戸所長

■パネルディスカッション コーディネーター 徳島大学 准教授 河口洋一

- パネラー 徳大教授 武藤裕則、京大准教授 竹門康弘、
阿南高専名誉教授 湯城豊勝、土研 萱場祐一、事務所長 野本粹浩
- ・那賀川の河床は昔に比べ、低下している。
 - ・置き土でアユの産卵床などの環境が良くなっているが、大きめの石も欲しい。
 - ・川と人が離れていっており、関心を持ってもらいたい。
 - ・河床上昇による治水への悪影響が心配である。
 - ・一時的に悪くなる箇所もでるが、変動を許容した管理が必要。
 - ・川口ダム下流に到達するのは30年以上あとであれば、川口ダム下流にも置き土をおきたい。



竹門康弘准教授



大野小学校4年生



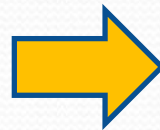
パネルディスカッション

■フィールドツアー行程

- | | | |
|---------------------|----|-----------------|
| 1. 阿南駅 | | 08:20集合、08:30出発 |
| 2. バス移動（細瀨橋からの視察含む） | | 08:30 ~ 09:45 |
| 3. 十二社（掘削箇所） | 視察 | 09:45到着、09:50出発 |
| 4. ビーバー館で休憩 | | 10:00到着、10:10出発 |
| 5. 小浜大橋（小計置土砂） | 視察 | 10:20到着、10:35出発 |
| 6. 小計橋（河床の状況） | 視察 | 10:40到着、11:40出発 |
| 7. バス移動 | | 11:40 ~ 13:00 |
| 8. 阿南駅 | | 13:00到着 |



置土による河床変化（小計地区の様子）



置土後

置土による河床変化（小計地区の様子）



